

Sustainability Report

SDGs
ESG

サステナビリティレポート

【R7年度版】

01 サステナビリティへの取組みに関する方針

SDGs宣言、サステナビリティ基本方針、推進体制

02 SDGs重要取組みテーマと行動指針

AgRegional E・S・G、第15次中期経営計画の4つの行動指針

03 令和7年度 取組み実績報告

農業・環境、地方創生、安心安全、人づくり

04 経営基盤・情報開示

ガバナンス、TCFD開示、コンプライアンス態勢

参考 SDGsとは

持続可能な開発目標の概要

SDGs宣言

「JAと一体となって金融サービスを提供することにより、農業及びその関連産業の振興、地域社会の活性化に貢献する」という経営理念のもと、事業活動を通じてSDGsの達成に貢献し、農業とくらしの発展による持続可能な地域社会の実現を目指します。

サステナビリティに関する方針

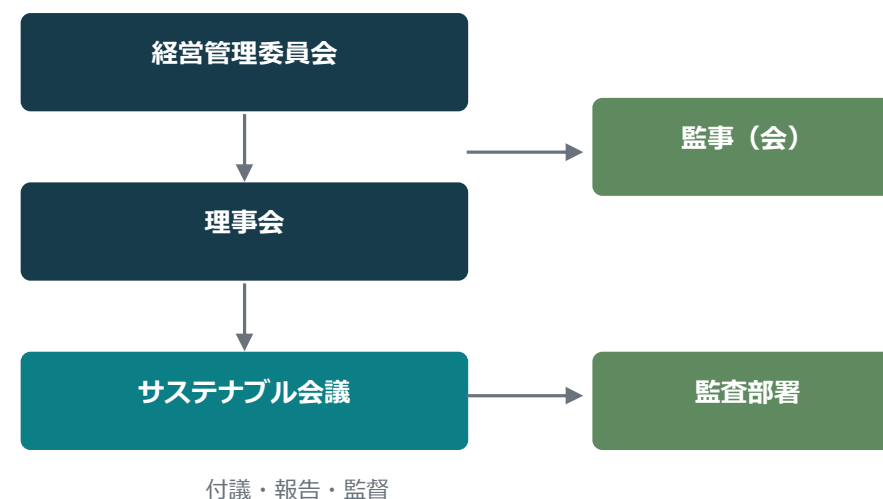
サステナビリティ基本方針

ESG投融资方針

SDGs重要取組みテーマ（マテリアリティ）

サステナビリティ推進体制

持続可能な環境・地域社会の実現と当会の社会的評価・存在価値の向上を目的に、事業活動および社会貢献活動の両面から「サステナブル会議」で協議し、協議事項を理事会・経営管理委員会に付議・報告する体制を構築しています。



農業・地域を取り巻く社会課題に対し、当会では「AgRegional E・S・G」の4つのアプローチで取り組みを展開し、持続可能な地域社会・環境の発展に貢献します。

01

農業・地域経済/社会

農業の持続的成長を支え、地域経済とコミュニティの活性化に貢献する

資金循環による地域活性化
農業所得の向上支援
金融サービスの利便性向上

02

環境保全

自然環境の維持・保全に貢献する

投融資における環境への配慮
環境負荷の軽減
環境保全活動

03

少子・高齢化社会

次世代への対応と高齢者の安心・安全な生活を支える

食農・環境・金融経済教育
資産形成・継承の相談支援
金融犯罪防止

04

ガバナンス（経営基盤）

内外の環境変化に即した経営管理の高度化に取り組む

コーポレートガバナンス
リスク管理・コンプライアンス
多様な人材が活躍できる職場

AgRegional E・S・G = Agri × Regional + Environment + Social + Governance

令和7年度は、第15次中期経営計画において重点的に取組むべきSDGsに係る事項や考え方を定めた行動指針に基づき、全会的に取組みを実践しました。

01

持続可能な農業の振興と環境保全に貢献する

金融支援を通じた農業の振興により、持続可能な食料生産に寄与するとともに、環境負荷の軽減に取り組む。

02

地域貢献活動や協同組合間連携による地方創生に取り組む

地域の清掃・美化、地域交流イベント、協同組合ネット北海道の活動等を通じて、地域社会に貢献する。

03

快適で安心・安全に暮らせる社会づくりに貢献する

利便性の高い金融サービスの提供、金融インフラの確保、食農教育、金融犯罪防止に取り組む。

04

職員満足度の高い職場環境を実現する

多様な人材の登用・能力開発と、未来志向の働き方・職場環境づくりにより、働きがいのある組織を実現する。

令和7年度は、金融事業体としての中核的な取組みであるESG投融資を中心に、地域貢献・教育活動・安全安心に資する取組みを着実に進めました。

ESG投融資実績

200.2億円

66.7%

単年度目標100億円を達成

令和7～9年度 3カ年目標300億円に対する進捗
中期計画進捗

66.7%

その他の主な取組み

協同組合間連携

就活サミット90名、北海道大学講座39名、子どもの居場所づくり応援基金を支援

地域貢献活動

献血82名、清掃96名、使用済み切手20,080枚、古本等374点を寄贈

安心・安全な社会づくり

教材本43,202冊、移動店舗車4台稼働、注意喚起羊羹74,000個

職場環境・人づくり

人事・賃金制度改正に向けた取組み、在宅勤務・時差勤務の試行

地域からの資金調達・資金供給

地域からの資金調達を主体に、地域で必要な資金需要に的確に対応し、地域内の資金循環に努めました。

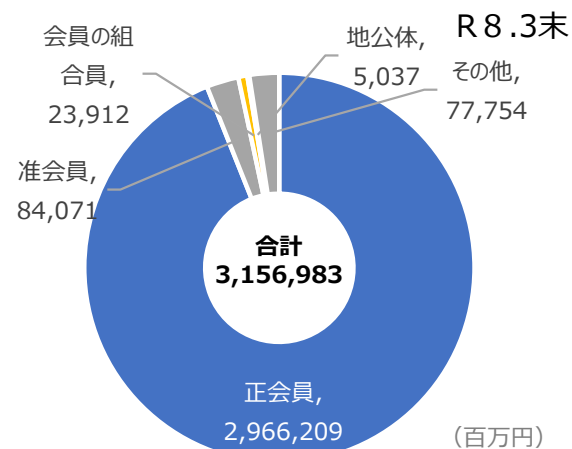
3,156,983百万円

貯金残高（NCD含む） R8.3末

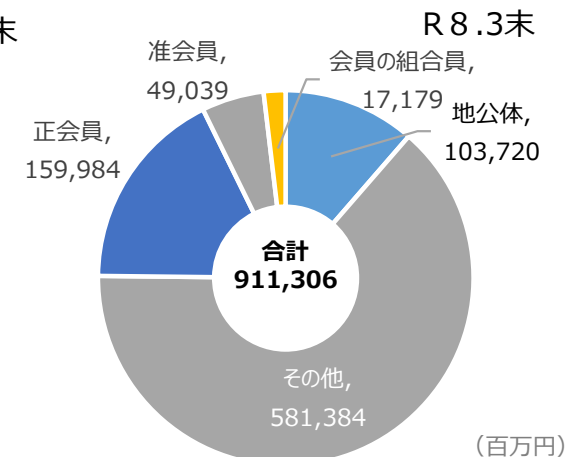
911,306百万円

貸出金残高 R8.3末

【貯金残高】（NCD含む）



【貸出金残高】



農業所得の向上支援

農業者の所得増大やコスト低減に繋がる投資等への資金対応を実施

多様な農業資金の提案、利子補給事業による借入負担軽減に取組み

農業融資に強い専門人材の育成により、事業実施体制を強化

相談・コンサル機能の発揮

北農5連JA営農サポート協議会を通じ、労働力確保や経営課題への対応を支援

ESG投融資方針・ESG投融資目標・実績

サステナビリティ基本方針に基づき、当会投融資における環境等への配慮に関する方針や、気候変動への影響が大きい事業・セクターに対する投融資方針を定めた「ESG投融資方針」を設定しています。

令和7～9年度 ESG投融資目標

300億円

単年度目標 100億円

令和7年度 実績

200億円

目標進捗率 66.7%

中期計画300億円に対する進捗

66.7%

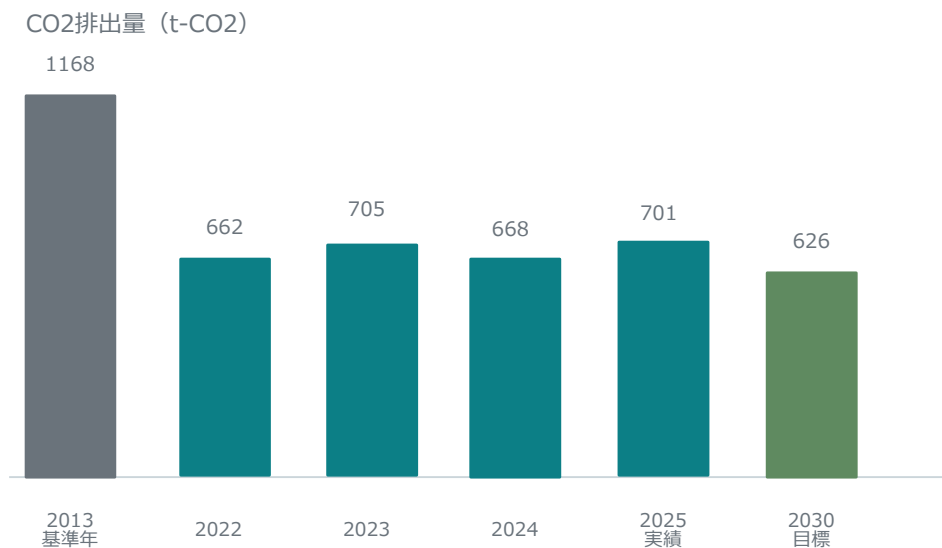
再生可能エネルギー資金需要への対応

JAバンク北海道として、多様な関係者との連携のもと、農林漁業の健全な発展と調和がとれた再生可能エネルギーの利活用に取り組み、地域内での資源活用・循環による持続可能な社会実現に金融面から貢献しています。

例：バイオガス発電事業を行う農業法人の資金需要に対応

CO2排出量削減に向けた取組み

3カ年ごとの「環境保全行動計画」に基づき、CO2排出量の削減と紙使用量の削減による森林資源の保護に取り組んでいます。2030年度のCO2排出量は、2013年度対比▲46.4%を目標としています。



2025年度実績（最新値）

701t**2013年度比 ▲40%**

継続的な取組み

取組み	内容
DX・ペーパーレス化	業務の電子化・電子保存を推進し、紙使用量削減に取り組む
軽装化の通年実施	省エネ・節電と働きやすい職場環境づくりの両面から実施
北海道グリーン・Biz認定	環境に配慮した自主的な取組みを行う事業所として認定を取得



協同組合ネット北海道の取組み

協同組合ネット北海道は、単一の協同組合では解決できない課題について、複数の協同組合の連携で解決し、持続可能な北海道経済と地域住民の生活向上に寄与することを目指しています。



取組み	時期	実績・内容
就活サミット参画	6月	10団体が連携し、学生90名が参加（前年比+47名）
協同組合間学習交流会	7月	協同組合組織の各職員が意見交換を実施
北海道大学講座	8月	北海道大学の学生39名に対し、座学や体験活動を実施
こどもの居場所づくり応援基金	10月	子ども食堂をはじめとした地域の居場所づくりを支援

産学官金連携による地域貢献

帯広畜産大学が設立した地域共創ファンドへ参画し、地域企業・JA・自治体等との情報共有や地域ニーズの収集、共同研究推進等を通じて、地域における酪農産業の持続可能な発展に寄与しています。

82名

献血協力者延べ人数

96名

清掃活動参加延べ人数

20,080枚

使用済み切手

47,135個

エコキャップ

374点

森と緑の会への寄贈

1,200枚

ベルマーク

活動	R7年度実績	前年度	差異
使用済み切手	20,080枚	15,050枚	+5,030枚
ベルマーク	1,200枚	1,061枚	+139枚
エコキャップ	47,135個	42,171個	+4,964個
リングブル	15,490個	15,746個	-256個
清掃活動	11回・96名	11回・94名	+2名
献血	12回・82名	9回・35名	+47名

新規取組み

北海道森と緑の会への協力

不要になった古本等を寄贈し、売却代金を地域の森林づくりに活用する取組みを実施しました。6部署が協力し、合計374点を回収しました。

地域医療、環境美化、資源循環、教育支援を、職員参加型の活動として継続しています。

JAバンク北海道 × 北海道日本ハムファイターズ 野球教室

北海道日本ハムファイターズと連携し、道内6地区で小中学生を対象とした野球教室を開催しました。6地区合計で378名が参加し、参加者の大半から「次回も参加したい」と肯定的な意見が寄せられました。

378名

野球教室参加者

86.2%

参加満足度（最高評価）

85.9%

また参加したい（最高評価）

開催日	会場
R7.4.27	知内町しおさい野球場（JA新はこだて）
R7.6.1	岩見沢市民球場（JAいわみざわ）
R7.7.26	美幌町柏ヶ丘公園野球場（JAびほろ）
R7.7.30	芽室町宮野球場（JAめむろ）
R7.10.12	別海町宮野球場（JA道東あさひ）
R7.10.13	鷹栖町民グラウンド（JAあさひかわ）



金融教育活動・職業体験

地域金融教育にかかる資材をJAへ提供し、J-FLECの講師派遣事業活用を周知

JAとの連携により小学校向け出前授業を実施

札幌市内及び近郊の小学3・4年生向け職業体験イベントに参加し、本会ブースでは168名が職業体験を実施

968校

教材本贈呈先

43,202冊

教材本冊数

8回

あぐりキッチン教室

237名

親子参加者

74,000個

注意喚起羊羹配布

4台

移動店舗車稼働

食農教育活動

全道の小学校（小学5年生）及び特別支援学校へ教材本を贈呈

収穫体験や料理教室を取り入れた体験型バスツアー「あぐりキッチン教室」を実施

「あぐり王国北海道NEXT」ともコラボし、取組みをPR



金融インフラ・金融犯罪防止

JAによる移動店舗車導入を支援し、現在4台が稼働中（道南・道東）

通信事業者と連携したスマホ教室を3JA（計4回）で実施

北海道警察との連携協定、HP・新聞広告・YouTube等による注意喚起を実施



年金相談会の開催支援

年金をお受取りになる方への受給手続き支援など、年金に関する相談や疑問に対応できる年金相談窓口の充実に取組んでいます。各JAにおける「年金友の会」の活動も支援し、健康で楽しく暮らせる明るい地域社会づくりに協力しています。

あぐりキッチン広告掲載媒体：小学生向け広報誌「エコチル」、Nツアー北海道（農協観光）公式LINE



未来志向の人づくり及び体制づくり

令和8年4月より人事・賃金制度の改正を実施し、年功的な制度からより職員の能力を重視する制度へ見直しを図って参ります。

具体的には、職能コース制度の見直し、人事評価・目標管理制度の見直し、研修体系等の人材育成プランの見直しを行います。

未来志向の人づくりを実践し、職員に納得感のある人事・賃金制度を目指して参ります。

見直し項目	改正内容
職能コース制度	「総合職・一般職」から「企画職・エリア企画職」へコース制度を見直し。コース間での業務内容に差を設けず、エリア企画職の管理職登用を可能とします。
人事評価・目標管理制度	職員の納得感のある評価制度を目指し、人事評価制度のブラッシュアップを図ります。
人材育成プラン	コース制度の見直しに併せ、研修体系も「企画職・エリア企画職」で統一するよう見直しします。

働きやすい体制づくり

育児・介護等と仕事を両立させる柔軟な働き方として、在宅勤務・時差出勤の実施や勤務時間短縮の対象者拡大を行い、職員ニーズに対応した働きやすい環境づくりに努めています。

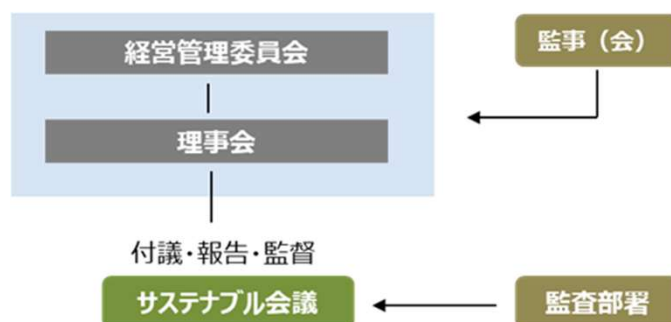
教え合う、支え合う風土を醸成しながら、前例に捉われない未来志向の働き方と職場環境づくりを進めていきます。

コンプライアンス態勢の更なる強化

気候変動関連リスク・機会の評価と財務への影響を踏まえ、TCFD提言を踏まえた情報開示に取組み、ホームページ上での開示を継続しています。

全役職員を対象とした研修等を継続し、AML/CFT対策や反社会的勢力との取引排除に係る組織的対応態勢の強化に取り組んでいます。

【サステナビリティ推進体制図】



【当会ホームページ（抜粋）】



TCFD開示

気候変動への対応は、当会の使命である「北海道農業の発展に貢献」の考えのもと、気候変動に関連する機会とリスクの観点に着目し、事業活動を通じて緩和と適応に貢献する取り組みを展開しています。

※TCFD：気候変動関連リスク・機会の評価と財務への影響について開示することを提言する枠組み

2015年、環境汚染や格差問題などの世界的課題に対し、17のゴールと169のターゲットからなる国際開発目標「SDGs（持続可能な開発目標）」が国連において採択されました。SDGsは2030年までに達成すべき目標とされ、国や自治体、企業、NPO、市民など様々な主体による取り組みが進められています。



Sustainability Report R7

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

当会は、事業活動と社会貢献活動を通じて、農業とくらしの発展による持続可能な地域社会の実現を目指します。